

目 次

愛の祝賀会 (ML #3570).....	1	忠実なしもべの報酬 (#3576).....	7
-----------------------	---	------------------------	---

愛の祝賀会！

マリア

FD/MM/FM 3570 10/05

これはホーム全体で行うラビング・ジーザス・ナイトの台本です。フィーストの始まりを告げるミーティングとして、その前夜に行います。16歳以上のためです。ミーティングを導く人は歌やアクティビティーを準備するために、前もってレター全部を読んでおきます。

台本を読むために、良い読み手を一人か二人、用意しておいて下さい。ミーティングの間、このGNのコピーを配るかどうかは皆さん次第です。全員に目を閉じて聞くようイエスが求めておられる部分がありますが、それ以外のところは台本を目で追える方が良いという人たちもいるでしょう。

途中で、インストルメンタル音楽をかけるよう求める部分があります。このミーティングの雰囲気や場に適していて、朗読の邪魔にならないものを前もって選んでおいて下さい。MOサイトに、ファミリーが制作したラビング・ジーザス・ソングのBMTが幾つかあります。あるいは、インスパイヤリングな美しい賛美歌のインストルメンタル音楽を見つけられるかもしれません。体制の歌のインストルメンタル音楽はやめた方がいいでしょう。その歌詞を思い出し、気がそらされてしまうかもしれません。

台本には、CDで歌をかけるよう求める部分や、全員で歌を歌うよう求める部分が出てきます。ここに、全員で歌を歌う時について主が語られたカウンセルを紹介しましょう。主は最初、ギターかアカペラで歌うように言われましたが、ギターを弾く人がいないホームのためにテープかCDをかける選択を含めてもよいか尋ねると、主は次のように言われました。

「テープをかける選択を含めると、ほとんどの人は怠慢になってしまい、わたしに抱く愛の気持ちを込めて心から歌い、音楽に心を動かされる時に受ける謙遜さや特別な祝福を逃してしまふ。歌える人がホームに一人もいないなら、何もないよりは、テープをかけ、それに合わせて歌う方がよい。だが、テープは最後の手段にすべきだ。わたしはまず花嫁たちにギターか何かの楽器、あるいはアカペラでわたしに歌ってほしい。自分たちから抜け出て、心からわたしに歌うなら、祝福と報酬がもたらされるからだ。」

1. (イエス:)全員で歌うことでこのミーティングを始めてほしい。賛美またはラビング・ジーザス・ソングを2曲、誰かに導いてもらうか、CDかMP3をかけなさい。祈る前に歌で始めなさい。わたしに何かを求めたり嘆願したりする前に、歌い、感謝しながらわたしの前に来なさい。これ

は、わたしを大いに喜ばせる。声の大きさは関係なく、心から歌うよう全員を励ましなさい。自分は歌が上手で大胆に歌えると思っていようが、歌は苦手なので、小さな声で歌いたいと思っていようが、全員関係なく、わたしを賛美するシンフォニーに加わるのだ。これらの歌はわが王国に入る

第一歩だ。(ここでいったん止まって、主が言われたように、賛美かイエスを愛する歌を2曲歌う。)

(それから始まりの祈りをする：)

2. 愛するスイートなイエス、かけがえのない夫、私を一番満足させる親密な恋人よ、私たちは、あなたの秘密の寝室に入り、愛と賛美と霊のセックスを楽しむ時になったことで胸躍らせています。あなたの鼓動を肌で感じ、あなたの親密な花嫁である私たちのためだけに語られる新鮮で清い言葉を聞く時間を。

3. これがどのような時間になるのか、またどんな楽しみが用意されているのか私たちは知りません。けれども、イエスよ、あなたを愛していること、あなたを幸せにし、あなたが与えられている快感や刺激的な愛のタッチやキスのお返しとして何でもできることをしたいと告げたいです。イエスよ、何でもあなたを幸せにすることをしたいです。あなたの望みは私たちの命令です。

4. 私たちは一つになって心と霊を開き、一人一人をあなたが望まれる花嫁、恋人にして下さるよう求めます。あなたを慕い続け、気をそらす思いや心配事、悩み、疑いやためらいなど何であれ、愛のベッドにいる私たちの間に割り込んでくるものから守って下さい。

5. より良い恋人になるのを助けるために与えられた素晴らしいスピリット・ヘルパーたちを感謝します。そして、今、彼らの助けを呼び求めます。霊の内て解放されるよう、エクスタシーを送って下さい。ダッドを送って、あなたを最後まで愛する情熱を与えて下さい。私たちが自由奔放な恋人になるよう、個人的なエレリアンとブルー・エンジェルの助けを求めます。

6. イエスよ、あなたの所に行く準備が整いました。あなたが何をを用意されているかと思うと、待ち遠しくてたまりません。

(次のイエスからのメッセージを誰かが朗読する：)

7. (イエス：) わが花嫁よ、わたしを受け入れてくれてありがとう。わたしはあなたのために素晴らしい愛の贈り物を用意した。魂の素晴ら

しい回復、深い喜び、わたしの心から直接あなたに語る愛の親密な言葉をだ。わたしにはただ、それを受け入れる器が必要なだけだ。そして、一人一人がわたしを心と思いと体に受け入れると誓ったので、わたしはあなたを満たす。この愛と信頼の贈り物を感謝している。

8. 今から言うことをしてほしい：

(バックに静かなインストルメンタル音楽が流れる。)

9. 肉の目を閉じ、霊の目を開きなさい。中には、自分は想像力に欠けているから、わたしがこれから語る美を見ることができないと言う人もいるだろう。だが、心配しなくてよい。あなたが何を見ているか説明してあげるから。たとえわたしが示していることを見たり、感じたりできなくても、それでもあなたの霊は感じ、元気を取り戻し、愛され、満足するようになるだろう。

10. まず、わが王国に入る前に、肉のものや、わが霊の内に深く入るのを防いでいるものをすべて脱ぎ捨て、取り去らなくてはならない。靴や靴下を脱いでいる所を想像しなさい。靴と靴下は、肉の体の制限や障害を示している。痛みや苦痛、頭痛、病気、疲れなど何であれ、身体的な不快感すべてだ。このような肉体的な問題を、今、静かにわたしに委ねなさい。身体的な悩みの何から解放されたいのかをわたしに告げなさい。そうすることで、あなたの霊は「靴」を脱ぎ、全面的な自由に一步近づくことになる。

(一時中断して、サイレント・プレーアをする。)

11. 今度は霊の内て、シャツやトップを脱いでほしい。シャツはあなたの心を覆う。これは、あなたの地上での感情や悲しみ、心痛を表している。あらゆる恐れや心配、また何でもあなたを悩ませたり、重荷になったりしていることをわたしに捧げなくてはならない。心にあることや悩みをすべて、静かにわたしに委ねなさい。そうすれば、わたしはそれらをあなたから取り去ろう。

(一時中断して、サイレント・プレーアをする。)

12. 次に、霊のズボンまたはスカートを脱ぎなさい。あなたが完全に裸になり、わたしが必要とするすべてを棄てた花嫁になるのを妨げているからだ。わたしにとって、あなたの下半身を覆うこれらの服は、すべての面でわが花嫁になることから遠ざける肉적인自己や疑い、ためらいのバリアのようだ。

13. これらを霊の内で取り去るには、わたしにそれらも委ねなければならない。肉적인思いが頭をよぎるかもしれないが、わたしへのあなたの愛はそれよりもずっと大きく、あなたはわたしを喜ばせたいと願っているのです、下半身を覆うこれらの服を取り去り、天の王国においてわたしたちの間に立ちほだかりうるすべてのものを脱ぎ捨ててわたしの所に行きますと告げなさい。

14. 思いのバリアを壊し、わたしたちの間に立ちほだかっているものを静かに告げるなら、わたしはそれらを取り去ってあげよう。優しく腕がせて脇に置き、あなたの体と心と心を、自由に愛し、愛されるものにしよう。これらのことをわたしに告白するのを心配したり、恐れたりしてはならない。そうではなく、喜んで行いなさい。わたしはあなたを自由にするのだから。

(一時中断して、サイレント・プレーをする。)

15. ここで、自分は自由で愛情深い、情熱的な裸の花嫁だとわたしに告げることによって、霊の下着を取り去りなさい。わたしを自由に愛する、わが愛と種に中に入ってほしいと告げなさい。そうすれば、あなたは自己の最後の名残から解放され、わたしの望む花嫁になれるだろう。地上のものは何でも手放し、すべての面で喜んでわが花嫁になると言いなさい。そうすれば、わが花嫁になるために霊の内で解放されるだろう。

(一時中断し、サイレント・プレーをする。)

16. 暗い空間の中で自由に踊り回る、美しい裸の女性を想像してみなさい。花嫁よ、これはあなただ。あなたは肉の自分を置き去りにしたの

で、自由にわが夢の花嫁、最愛の恋人になれる。あなたがたはわたしにとって一つの霊、わたしが愛する一人の花嫁だが、同時にわたしは一人一人を別々に愛する。何と美しい花嫁なんだ！

17. 今、わたしはあなたに、ここ天の王国まで上がってわたしに会いに来るようにと呼んでいる。あなたを愛し、あなたと一緒にいたい。あなたはすべてを捧げたことでわたしを喜ばせ、興奮させた。もうこれ以上、待てない。あなたと今すぐ一緒にになりたい。

18. わたしは、わが寝室へと疾走できる特別な通路を開いている所だ。臨死体験をした人が見た光のトンネルに似ているが、このトンネルは、天の光と水、鍵の力を受けた、愛による黄金の液体で造られている。

19. このトンネルの中を、ものすごいスピードで上昇している自分自身を想像してごらん。わたしに会いに上へと飛んでいる間、あなたは清められ、新たにされる。ものすごい速さでトンネルの中を突き抜けているので、天の水と黄金の液体があなたの体をすみずみまで清めている。すべての毛穴から汚れを洗い落としているので、あなたの肌は今までになかったほどきれいで、みずみずしい。その液体は髪の毛も洗い流しており、かすかなもつれやからまりでさえもとかしている。あなたは頭のとっぺんからつま先まで、かつてなかったほど清く、きれいに感じている。清められたことで、体全体がゾクゾクしている。ちょうど、マウスウォッシュを使った後に口の中に残る刺激のように。

20. 今、あなたはトンネルから出てきた。そして、わたしの前に立っている。ついにあなたと一緒になれて、わたしはとてもうれしい。あなたは両手を広げてわたしに近づき、すぐにもわたしに身を委ねようとしている。

21. 今は、わが花嫁であるあなたが、仲間の花嫁たち全員を代表して、心に抱く愛の言葉を証言する時だ。わたしの腕の中にいることでどれほど喜んでるか、どれほどわたしに口づけしたいか、どれほど体全体でわたしの愛を感じたいかを告げなさい。一人一人が、わたしが描写した通りにわたしの前に着いたばかりの自分を思い描き、自分が言うであろう言葉を声に出して言いなさい。

22. これらの愛の言葉を仲間の花嫁たちにも聞かせなさい。恥ずかしさによって自分を抑えてはならない。あなたがわたしを愛していること、また熱烈に恋しているのを恥じていないことを示すテストモニーとしなさい。複雑であろうと単純であろうと、どの言葉をわたしに言うかは関係ない。わたしはただあなたの心で何を思っているかを聞きたい。わたしにとっては、それこそ美しいからだ：

(インストルメンタル音楽が次第に小さくなる。)

(全員が一人ずつ順番に、幾つかの文章からなる愛の言葉をイエスに告げる。)

23. (イエスが続ける：) ああ、ありがとう。このような愛の言葉をありがとう。何という情熱、感覚、感情だろうか！ ああ、あなたはわたしの心をあふれんばかりに満たしてくれた。このように愛されたことで、わたしは喜びの涙を流している。自分を抑えずにいてくれてありがとう！ わたしの願いをかなえてくれてありがとう。さあ、今、霊の内に愛し合おう。わが宮殿でメイクラブをしよう。

24. この歌の歌詞を聴きなさい。そして、あなたの霊的想像力をわが霊によって満たし、霊の中で思う存分わたしにファックしなさい。これらの歌詞を聴いて、わが霊であなた自身を満たしなさい。わたしはあなたのそばにいて、あなたはわたしのそばにいるからだ。わたしと一緒にいる所を想像できるなら、そうしなさい。想像できないなら、あなたの心の願いを言葉で言い表しなさい。あなたにそれが見えようが見えまいが、わたしはあなたの愛を感じるだろう。そして、その愛を二倍にして返すだろう。

(ラビング・ジーザス・ソングを一曲、テープでかけ、その間、全員が歌に耳を傾け、個人的にイエスを愛する時間を取る。提案：「Dancing with Jesus」から「Come Take My Love」か「No One Loves as You Love」)

25. ああ、何という愛！ キリストの花嫁たちは何というスイートで情熱的な愛を、夫であるわたしに与えていることか。素晴らしい霊のエ

クスタシーだ！ あなたがた一人一人は素晴らしい。そして、わたしにもすごい喜びを与えている。ありがとう。ありがとう！

26. 今、両手を挙げて、わたしがあなたの心に注ぎ入れている喜びゆえに、声を上げてわたしを賛美し、愛しなさい。両手を挙げて、あなたの唇を捧げ、わたしに自由奔放な賛美を与えなさい。何度も同じ言葉を繰り返すだけで満足するのではなく、わたしの愛と力のすべてを言葉で言い表しなさい。あなたがわたしを愛していること、わたしを望んでいることを告げ、わたしを賛美し、わたしがあなたの魂の恋人であることを告げなさい。あなたがこの壮大な愛の祝宴に加わる時、わたしはナタリアに、来て、あなたの心から賛美を解き放つように言おう。あなたの賛美の天使もいつものように共にいて、あなたの心にあるわたしへの思いを言葉にするのを助けてくれるだろう。

(一時中断して両手を挙げ、全員で言葉と異言で賛美する時間を取る。)

27. ああ、わたしはいかに民の賛美に宿ることか！ ダビデ王が契約の箱の前で自由奔放に踊ったように、わたしもあなたの賛美の声に合わせて天界を自由奔放に踊る。素晴らしい音楽！ 素晴らしいビートだ！ あなたの親密な賛美、感謝で満ちた心からの気持ちほど、わたしをこのように行動させ、動かすものはない。わたしはこれが大好きだ！

28. さて、わたしの大切な人よ、わたしが忠実にあなたに浴びせてきた豊かな賜物について、どう考えているのかを知りたい。あなたはわたしを大いに喜ばせているので、天の宝庫から高価な宝石や贈り物をあなたに与えるのは、わたしのお気に入りの仕事の一つなのだ。

29. このように親密に愛し合った今、あなたがこれらの贈り物をどう思うかを聞きたい。そして、あなたと共に再びそれらを楽しみたい。女性が愛のベッドから起き上がり、見事に装飾された寝室を駆け抜けて壮大なクロゼットに行き、そこから、たくさん引き出しや仕切りがほしいかにも高価な宝石箱を取り出す姿を思い描きなさい。

30. 彼女はわたしが待っているベッドにその

宝石箱を持ってくる。そして、花嫁と二人で箱の一部分一部分を開けて、二人の関係が始まって以来わたしから受け取った宝石や贈り物を見る。彼女はそ一つ一つに礼を言い、それをどれほど気に入っているかをわたしに告げる。そして、わたしたちは、わたしがそれを与えた時の追憶にふける。

31. 花嫁たちよ、これをあなたの賛美としなさい。わたしが与えた贈り物を賛美しなさい。わたしが贈り物として与えた、天の王国からのいっさいのものを賛美しなさい。考える時間が必要なら、賛美が次から次へと矢継ぎ早に出てこなくても大丈夫だ。言葉と言葉の間に少し間が開いても、わたしは気にしない。それは、言葉に出ない賛美と、あなたがあなたに新しい霊の賜物を与えた様々な時のことを思い返す喜びの時となるからだ。

32. 愛する人たち、今まで多くのフィーストが行われてきた。幾ページものわが言葉があなたに手渡された。多くの預言が与えられ、その一つ一つにおいて、わたしは貴重な宝を際限なく注いできた。それによって、わが驚くべき寛大さとそれによってわが花嫁たちの人生が豊かになったことを、共に一つ一つ挙げていく時に、あなたの心に喜びが、その顔にほほえみが、その唇に賛美がもたらされるように。

(ポップコーン・スタイルで、霊の賜物をイエスに感謝する。)

(賛美が終わり、静まったら、ギターに合わせて、またはアカペラで賛美の歌を誰かが導く。今したばかりの賛美の種類にふさわしい歌を歌うこと。)

33. (イエス:) とても楽しかった! あなたと一緒にこれらの宝物を眺めて一つ一つを堪能するのはとても楽しかった。わたしはあなたのすぐそばにいて、それぞれの贈り物についてや、その特別な宝をあなたにあげた時、深い喜びを感じたことを思い出していた。あなたがそれらを受け取った時のことも覚えている。喜んで受け取った人もいれば、ためらいがちに受け取った人もいた。だが、あなたがたは次第に、それが意図されたように大きな祝福として感謝するようになった。

た。そして、今ではわたしが与えたものすべてを、とても嬉しそうに賛美することができる。

34. そして今、わたしは新しい賜物を与えよう! うっかり口を滑らせないように、本当に気をつけなければならなかった。わたしは花嫁たちに、天の王国からのものを与えるのが大好きだからだ。ほとんど待てないほどだったが、今まで我慢できてうれしい。この愛のベッドで待っていないなさい。取りに行ってくるから。

35. (イエスが情景を説明する:) 今度はわたしがベッドから起き上がって、部屋を横切ってクロゼットに行く。このクロゼットの中には小部屋があって、鍵がかかっている。その扉を開く唯一の鍵は、親密な愛の鍵だ。そこで、わたしは「ああ、そうだった」と思い出す。花嫁であるあなたが鍵を持っていたのだ。それを取りにいかなければ。わたしはあなたが待つベッドに戻り、親密な愛の鍵が首にかけられているのを見る。

36. わたしはそれをそっとあなたの首からはずし、その唇にさっと情熱的なキスをして、小部屋へと戻る。親密な愛の鍵により扉が開くと、中はバーのようになっていて、様々な酒(スピリット)が入ったボトルがずらっと並んでいる。わたしはそこから探していたボトルを取り、特別なグラスと共にあなたの待つ愛のベッドへと戻っていく。

37. このボトルには、わたしがあなたのために用意した賜物、あなたが飲む強い酒(スピリット)が入っている。これは、清く、活気づいた霊の賜物だ。あなたが飲み、あなたの内に保つためのものだ。これは、あなたがわたしのいる世界に入ってきた時に通り抜けてきたのと同じ種類の、蒸留された液体だ。とても透んでいて、しっかり冷えているが、それでもどういいうけか、暑すぎるとか寒すぎるとか感じさせずに、あなたの霊を温める。体全体をゾクゾクさせ、かつてないほどに感覚を研ぎすます。

38. 寝室で愛し合った後にあなたが地上に戻る時、小さな天国を持って行けるよう、この賜物をあげたい。そして、今ではそれについて知っているのもっとちよくちよくここに戻って来て、わたしにこの霊の飲み物を一杯求めることができる。それはあなたをすみずみまで清め、わた

しとより近いつながりをもたらし、わが存在をもっと鋭く気づくようにする。

39. わたしは今、このボトルのふたを取る。冷気が立ち上るのが見えるだろう。冷凍庫からとても冷たいものを出した時のように。わたしが与えるグラスは小グラスより少し大きく、とても澄んでいるが、とてもどっしりしている。それは天国のダイヤモンドを彫ったもので、地上のどんな鉱物より珍しく、貴重だ。

40. グラスが持つ特別な意味は、ただ、わたしが親密な花嫁たちをどれほどかわいがり、甘やかしたいかを表すことに尽きる。わたしはあなたを愛しているので、霊の王国にあるわたしの富を見せびらかしたい。あなたはわたしを夢中にしたので、このすべてを受け取る権利がある。そして、あなたにそれを知ってほしいのだ。あなたの夫がどんなに裕福でパワフルか、またどんなにあなたのことを愛しているかを知ってほしいのだ。

41. だから、このダイヤモンドのグラスから、清く活気を与える霊の酒を飲みなさい。唇には冷たいが、体を温める。そして、あなたは再び清められたように感じ、体中に刺激が走るのを感じるだろう。それはこの世の泥を洗い流し、あなたを天の王国に入るのにそぐわなくするものからあなたを清める。花嫁よ、全部あなたのものだ。いつでも使っているんだよ。

42. わたしに会いに来たくても、その日の仕事や、実際の肉の世界に住んでいることで少し汚れているように感じるなら、この酒(スピリット)が与えられるよう求めるといい。わたしはあなたに、霊の高揚を与え、リラックスさせ、きれいにし、わたしに会うにふさわしい者にする酒をもう一杯、グラスに注ごう。

43. 気に入ったかね？ そう望むよ。そして、もっとしばしば使ってほしい。なくなることはないからだ。そして、とても役に立つだろう。わたしはこれを、代価や条件を全くなしに与える。このすべてはあなたのものだ。あなたを愛しているから。

(ミーティングを導いている人はここでいったん止まって、わたしの賜物や善ゆえにわたしをほめたたえ、両手を挙げて賛美する時間を取る。)

44. 愛する人たち、この時間をありがとう。素晴らしかった。わたしたちの霊は真に溶け合い、一つになった。今、あなたは自分の世界に戻るが、来た時よりももう少し多くわたしを持って帰ることになる。あなたはわたしに近づき、わたしはあなたに近づいた。そして、今まで以上に親密な関係になった。わたしはこの時間がとても気に入った。そして、あなたを愛している。あなた自身を完全に委ねてくれてありがとう。

45. さて、わが愛のベッドから出て、肉の世界に戻る今、この歌に耳を傾けなさい。そして、わたしのベッドと情熱はすぐそばにあることを覚えていなさい。わたしはいつもあなたのすぐそばにいて、あなたはいつでもわたしの所に戻って来ることができる。一つの賛美、一つの言葉、一つの思いだけで、わたしの所に着く。肉の内ではわたしから離れなければならないかもしれないが、霊はいつでもわたしと一緒にいることができる。

46. わたしにさよならのキスをして去った後は、必ず、兄弟姉妹にも愛を示しなさい。彼らもわたしと共にいたのであり、わたしがあなたがた全員を愛した愛で、あなたがたの顔は輝いている。お互いにおやすみのハグとキスをしなさい。そうすれば、わたしにハグとキスをしていることになる。あなたがたは花嫁として、わたしが与えた愛と一緒に祝うことになる。これは完ぺきな夜の完ぺきな結末になるだろう。

47. 花嫁たちよ、おやすみ！ 心から愛している。そして、いつもあなたと一緒にいるよ。一人一人がわたしのお気に入りだ。そして、次に愛のベッドで過ごせる時間を心待ちにしている。愛しているよ！

[最後にCDかMP3でラビング・ジーザス・ソングを1曲かけ、全員が瞑そうし、イエスにおやすみを告げるなどをする。曲の半分あたりで、ミーティングを導いている人は、お互いにハグし、愛し合うよう全員を促す。歌の提案の例：Beyond Compare (Embrace), All That's Within Me (Dancing with Jesus), Stay by Me (Stay by Me), Nothing Without Your Love (Stay by Me) など、何でも主が示されるもの！]

注：このGNは、2006年ファミリー・フィーストの間に個人的に読むものです。

忠実なしもへの報酬

スピリット・トリップ
マリア

FD/MM/FM 3576 10/05



最愛のファミリーへ、

主は、「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神はご自分を愛する者たちのために備えられた」と約束されました（1コリ2:9）。ですから、主は何かとても素晴らしいものを私たちのために用意しておられることがわかります。人間の想像や夢、期待をはるかに超えたものを。

2. これから、主がある経路に与えられたスピリット・トリップを紹介したいと思います。主の忠実なしもべが天に帰郷した様子を見たのです。

3. これは、最近愛する人を亡くした人にとって励ましになると思います。地上での試練や困難、また主に仕える上での犠牲がどんなに大き

くても、主はそのすべてに報いて下さると思いが、出ることが全員の励ましになるよう祈っています。主は一度、こう言われました。「犠牲を払ったことを感じないほどに報われる時、それは報酬のたった1パーセントに過ぎないことを忘れないでほしい。わたしの約束は100倍にして返すことだから、さらにずっと多くのことがやってくるだろう！ わたしはわが花嫁たち、わたしにすべてを与える人々を甘やかすのが大好きなのだ。」(ML#3379:218)

4. ですから、地上の人間が使う言語や限られた言葉は、天の報酬を受け取るといった出来事を正確に描写することはできず、明らかにされていないこともまだ数多くありますが、私たちの励ましとして、主はそれを少しかいま見させて下さいました。主は最近、私たちは自分たちの命の冠や受ける報酬についてもっと考えるべきだと言われました。それは私たちを動機づけ、来るべき戦いや仕事に必要な恵みを与えてくれるからです。

5. 覚えていて下さい、報酬はそれぞれ異なります。それを受け取る人それぞれに個人に合わせられているのです。あなたの夫、主は、誰よりもあなたのことを知っています。何といたっても、あなたを造られたのは主なのです。そして、主はあなたにとって一番意味のあるものを計画し、準備し、与えられるでしょう。あなたはそれを当てるにできるのです！

私たちの恋人、主の内に愛をこめて、
ママ

6. (ビジョン:) 一本のろうそくが燃えているのが見えます。部屋は暗く、私の前にはこのろうそくがついている一本の柱があるだけです。ろうそくは10センチぐらいの太さです。しばらく燃えていたようで、ずいぶん短くなっています。芯も燃えて短く、ほとんどなくなりかけています。

7. 左には窓があり、薄手の白い絹のカーテンがゆったりとかかっています。右には二人の人が立っていて、ろうそくの炎を見つめています。一人はイエスです。御顔のまなざしは、百万もの主の描写に値します。ろうそくを愛おしく眺めて

いる主の瞳には、深い愛が見えます。誇りと愛の表情が見えます。主のために燃えているこのろうそくを、とても誇りに思われているのです。

8. 主の横には美しい女性が立っています。彼女の髪は金髪で、ほとんど白に近いです。ゆったりと肩から流れるような薄い生地のできた、長く優雅な袖のついたドレスを身にまっています。彼女はイエスの肩に頭をもたれかけています。彼女はスピリット・ヘルパーや守護天使のような気がします。

9. ろうそくの炎がだんだん小さくなると、イエスは優しく手を伸ばして、炎を囲みました。主が手を引くと、主の手の中には、かつてろうそくの上で燃えていた炎がありました。場面が消え、部屋は真っ暗になりました。

10. 地上での奉仕の人生が終わったのです。イエスはそこにいてこの忠実な炎を捕らえ、芯やろうがなくなっても炎がちらつかないよう見届けておられました。イエスの手の中で、炎は今までにないほど強く燃えていました。

11. 経路である私は今、場所を移され、この世から去った人の目を通してこの場面を見ています。今から描写することはすべて、この人の目を通して見たことを説明したものです。

(場面が始まる：)

12. やわらかな雨を感じて目が覚めました。あたりは真っ暗です。暗くて静かです。夜明けかその直前、早朝のようです。嵐の後の草の上に横たわっているような気分です。太陽が昇り始めました。ふと、この静かな場所に一人でいることに気づきました。

13. 誰かが私の右側に立っています。姿形はわかりません。ただ、光だけが見えます。まばゆいばかりに輝く、慰めに満ちた存在がこの園に入ってきました。この光からほとぼしる暖かさと喜びを感じます。この光は私に手を伸ばしています。私はその明るく輝く手を取って、立ち上がります。

14. すると突然、あたり一面に壮大な音楽が響き渡り、沈黙を打ち破ります！ とても大きな音だったので、私は思わず飛び上がりますが、その手がしっかりと私を押さえてくれます。

15. 目の前で園の場面の布地が引き裂かれ、光が差し込みます。まるで絵が真ん中から破られているようです。光が差し込み、私を覆います。音楽があたり一面に鳴り響き、壮大な祝宴のよう

なので、わたしはその完全さと歓喜に圧倒されています。

16. わたしの横に立っている人の方を見ると、今、それがイエスだとわかりました。私を見つめる主の目には喜びの涙が流れています。主は私のことをとても誇りに思われています。ああ、このひとときで、すべての痛みや苦しみが報われます。事実、報われなかったことなど何も思いつきません。

17. 私の人生が目の前で瞬時によみがえり、フィルムのように一画面ずつ表示されていきます。自分のすべての行動、イエスにとって大切な事すべて、イエスに喜びをもたらしたことすべてが見えます。また、利己的な行動をしている自分を見てうんざりさせられる場面もあります。けれども、イエスはそのような場面を消し去り、ご自分を幸せにしたより多くの場面を続けられたのです。

18. フィルムが終わり、頭の中にこの言葉が残ります。「よくやった。良き忠実なしもべよ。わたしが用意したものを見せてあげるから、待っていないさい！」

19. この間、音楽があたり一面に流れていて、私は体でそのリズムを感じています。けれども、今、音量がさらに大きくなり、私はそのリズムを霊全体で感じ始めます。けれども、音楽のせいで耳が痛くなるとかうるさいと感じることは少しもありません。私の中にあるあらゆる感覚がリズムに合わせて踊り、幸せに歌い、夢のようなウキウキした気分を作り上げています。

20. 私はあまりにもこの感覚に夢中になって、まわりの景色が変わっていることに気づきませんでした。興奮が収まり、周りの光景に集中できるようになると、王座につながる長い通路の端に自分がいるのがわかります。

21. この長い通路の先には誰がおられるのかが、すぐにわかります。そして、その方の方へ歩き始めます。通路の両脇には大勢の友人や愛する人たち、スピリット・ヘルパーがいて、私に声援を送っています。彼らは皆、手を振り、私に手を伸ばして、お祝いの言葉を叫んでいます。

22. 目に涙がこみ上げ、私は主の下にかけ出します。時間が止まり、私はスローモーションで走っているみたいです。一人一人の顔を通り過ぎるたびに、その人についての絵像が私の心に映し出されます。一人一人の顔が見えるたびに、私は実に多種多様で強烈な感情を経験するので、私に押し寄せるとても多くの感情を言葉で言い表す

ことはできません。

23. 私が地上にいた時に主に導いた人も何人かいます。彼らが抱く感謝の念は圧倒されそうなほどです。また、別の顔が見えます。私を誇りに思っている父です。また私の目に涙があふれます。また私に会えたことで喜んでうれしそうな友の顔も見えます。これが、まるで永遠に続くかのように続いています。地上での私の奉仕によって影響を受けたとても多くの人々です。

24. これでもまだ十分ではないというかのように、顔を上げるとイエスが駆け寄っているのが見えます。主は両手を広げ、この上もなくうれしそうな表情をしています。私が主の下に走っていく間、私の周りにいた人たちの顔が消えていきます。その時、他には何も見えません。

25. 私の夫、王、神、宇宙で最も大切な方、主が駆け寄っています！ ああ、それ以外のことなど考えられましようか？ 群衆がまだそこにいるのがわかります。割れるような声援が聞こえるからです。けれども、もう私の耳には入りません。今の私にとって大切なのは、夫である主の胸の中に飛び込むことだけです。

26. ああ、何という喜び。ついに天の故郷に戻ったという深い安心感。まるで、自分が甘く回復させる水の海に落ちた雨粒のように感じます。私は長い間、故郷から離れていました。ついに戻ってきたのです！ 自分が生まれた海の故郷に戻ったのです。私はその一部であり、決して完全に離れることなどできません。

27. 主と抱擁し、キスする私に、感情の波が押し寄せます。主が私のことを誇りに思っておられるのが感じられます。言葉では表せないほどの誇りです。私への超自然的な誇りと、私のつたない奉仕への感謝の気持ちです。最初、主の前にひざまずくのですが、それでも十分ではないので、腕を投げ出して、ひれ伏します。

28. 主は私を抱き上げて、「わかっている、わかっているよ」と言われます。私たちはずっと抱き合っています。まるで永遠に続くかのように。そして、まわりを取り囲む群衆の前で、私の顔中にキスをされます。喜びで心がはじけそうです。それから、イエスは頭上におられる天の父の方を見て、「父よ、この愛する者をわたしのところに戻して下さいと感謝します」とささやかれます。

29. 腕を伸ばして私を支えながら、イエスは目を見つめてこう言われます：

30. 息子よ、愛する息子よ！

31. 再び私を抱く主のほおに涙がついたまま。それから、主はまた腕を伸ばして私を支えます。

32. (イエス:) 愛しい者よ、あなたのためにしたいことがある。

33. イエスはしっかりと私の目をみつめ、私の前でゆっくりひざまずきます。どうして私の夫、主が、私の前でひざまずけるのでしょうか？ 私は思わず大声を出します。「ああ、イエス様。そんなことはしないで下さい。私はそのような栄誉に値しません。」主はまだ私を見つめています。そして、こう言われます：

34. (イエス:) 愛する者よ、あなたはわたしのために生き、わたしのために命を捧げた。わたしのために多くの人々を勝ち取り、わたしのために犠牲を払った。今、こうさせておくれ。他にあなたをたたえる方法が思いつかないのだ。この愛の贈り物を受け取ってほしい。どうしてもこれをあなたに与えたい。



35. (経路が祈る:) イエスよ、あなたが示されていることに疑問を抱きたくはありません。けれども、自分が正しく受け取っていることを確かめたいです。どうかこれを裏付けて下さい。

36. (イエス:) そうだ、愛する者よ、あなたが見たものは正しい。わたしはわが花嫁全員の前でひざまずくわけではない。一人一人が異なり、報酬も異なるからだ。だが、わたしが弟子の前にひざまずいて、足を洗った時のことを覚えているだろうか？ これは真実だ。あなたが見た通りなのだ。[以上、経路の質問への答]



37. まわりを見ると、イエスと同様、そこにいる人たち全員が私の前で片膝をついてひざまずいています。その時、心の中で何千人もの人が叫んでいる声が聞こえます。その声は感謝と愛と親愛の言葉です。けれども、中でも一番大きかった声はイエスの声です！ 主が声高に私に愛を宣言し、私が主のためにしたすべてのことゆえに感謝していると言っているのが聞こえます。

38. 次から次へと涙があふれ出て、抑えることができません。私はイエスの前にひざまずき

ます。でも、ひざまずくだけではこの気持ちを十分に表せません。それで、もう一度地面にひれ伏し、このような大きな報酬と名誉ゆえに声をあげて泣いています。

39. 私はそれに値しないと感じますが、イエスのために、この大なる名誉と報酬を受け取ります。心の中には主のためにもっと多くをなさなかつたことで深い痛みがあります。深い悲しみを感じます。今まで一度も感じたことのない悲しさです。とても激しい苦痛です。私の中には、自分がしたすべては全く十分ではなかつたという気持ちがあるのです。私はあまりにも多くを差し控えました。当然すべきほど与えなかつたのです。

40. 私はこのような報酬に値しません。涙が流れます。その時、イエスが私を抱き上げるのを感じます。主は今、両膝をつき、私の頭を持ち上げて膝に乗せて下さいます。片方の手は私の頭の下に、もう片方の手は流れ出る涙をぬぐっています。

41. (イエス:) あなたが何をしなかつたかは、わたしにとって関係ない。それらの事はもう考えないように。わたしにとって大切なのは、あなたがした事、わたしを愛し、従つたこと、わたしの名によって人々を愛することで、わたしに名誉を与えたことだけだ。ああ、愛する人よ、わたしがどんなに幸せかがわからないのか？ わたしは喜びの涙を流している！ あなたは故郷に戻ってきた！ この時をどんなに待ち望んでいたことか。

42. 過去のことはもう関係ない。大切なのは、わたしたちの喜びと、あなたが戻ってきたことだけだ。大切なのは、あなたがまたわたしと共にいることだけだ。ああ、愛する人よ、わたしの心にある喜びはとても強烈で、歌わずにはいれない！

わたしが心から愛した息子が

任務に赴いた

わが愛を与えに、遠い遠い国へと

わたしは心で知っていた、彼は行かなくてはと

わたしはここで彼を待った。

心の中にはいつも彼がいた

わたしの心で、今、数々のメロディーが

奏でられている

海がどんなに美しくとも、

わが心に抱くあなたへの愛とは

比べものにならないと

43. 息子よ、あなたのことが誇りだよ！

よくやった、よくやった、愛する忠実な者よ。主の喜びに入りなさい。今からパーティーとお祝いが開かれるから！

44. イエスは私に、私は主に腕を回して歩き始めます。

45. また、前に見た通路の端にいます。けれども、今回は何も音が聞こえません。ほんの少し前までは、天国の栄光の広間が揺れるほど大声で声援していた群衆が両脇に立っています！ シーンと静まりかえっていて、小鳥さえもさえずろうとしません。そして、イエスが大きな声でこう宣言されます：

46. ここに立つのは、わが愛する忠実な者、わたしを愛する者だ。その目はこの世の制限によってかすんでいたものの、それでもわたしを愛し、喜んでわたしに応じ、わたしを信じた。多くの苦しみや悲しみを経験した。

47. 彼はわたしの悲しみを分かち合い、わたしの重荷にあづかつた。わたしが失われた魂のために経験した痛みを、彼は受け入れたのだ。わたしや天の父、母、兄弟であるわたしたち全員に仕えるために人生を捧げた。彼は愛するものを失うとはどういうことかを知っている。そして、わたしが求めたものを喜んで手放した。そうすることで、彼は天の世界との近い絆を保つたのだ。

48. 彼が戻ってきたことでわたしが抱いている喜びを、あなたがた一人一人に知ってほしい。この旅は長く、つらく、厳しかったが、彼には愛の心があり、それはすべての創造物に対するテストモニード。最愛の息子よ、わたしは今、あなたに榮譽を授ける。前に出て、報酬を受け取りなさい。

49. 彼は、わが名に伴う犠牲を知っている。そして、サタンのあざけりや誘惑を果敢に耐え抜いた。だが、言うておくが、固い決意と栄光に満ちた勝利を持つ者は、サタンをついに打ち負かし、サタンの手中から勝利を奪い返したのだ。

50. 彼はわが手にある鋭い短剣のようで、それは何度も突き刺したのにも関わらず、この旅路に決して疲れなかつた。その委ねた心により、彼はサタンの力に打ち勝った。彼は永遠に祝福され、永遠にわたしのものだ！

51. わたしは今日、愛するあなたに、また証人としてここにいる人たち全員に告げる。あなたは、犠牲的にわたしに仕えたことで知られてき

た。そして、今、その犠牲に見合う報酬を見せよう！ ここに来なさい！

52. この宣言が終わり、広間は再び歓喜と興奮の渦に包まれています。一人一人が両手を挙げてイエスをほめたたえ、飛び跳ねています。私は、わが救い主、永遠の恋人の近くに行きたいという抑えきれない衝動により、前に駆け寄ります。十分速く走れないもどかしさから、主の下に飛び込みます。

53. そして、王座の前に両膝をつくと、不思議なことに、それはちょうど救い主が差し出しておられる手の下なのです。その手には明るく輝く光があります。聖徒の輝きです。主は手から水を注ぐかのように、その手を開かれます。光が私に注がれ、私の体全体がキラキラ輝きます。

54. この時までには、自分自身と私のまわりにいる人たちとの違いに気づきませんでした。それまでは、私も輝き、清められていたものの、他の人たちの方がもっと輝いていました。けれども、今、御霊の油が注がれたので、私は変わったのです。私の手足から、私に注がれたのと同じ光が流れ出ます。

55. (イエス:) さあ、今、あなたは地上のものから完全に清められ、天国での思い出がすべてよみがえった。

56. 私の思いや思考に、天国での考えや思い出、天の世界の友達のことがどんどんよみがえります。そのすべてが津波のように私の思考に押し寄せてきます。今、思い出しました、すべてを思い出しました！ わたしはためらいもせずイエスの両脚に抱きつき、足にキスし始めます。

57. 主は私を抱え上げ、こう言われます。「あなたのためにもっと多くを用意してあるんだよ！」

58. 私は落ち着こうとしますが、主が私の肩に触れて初めて、再び集中できるようになりました。次に主は、もう一つ光り輝く物を示されます。光の輪です。私が想像していた「命の冠」とは全く異なっています。動き、生きているのです。なんと説明すればいいのでしょうか？

59. たくさんの輪が回っていて、その周りをキラキラとした輝きが回っています。個体ではなく、すべて光というわけでもありません。たった一つたとえられるとすれば、すごいスピードで頭上を回る銀河とでも言えるでしょうか。考えら

れるありとあらゆる色がキラキラと輝き、光っています。想像や描写をはるかに超えた色が、その輪の周りを縫うように回っているのです。

60. これが私の命の冠です！ 救い主、夫、恋人よ、私はこのような美しい贈り物に値しません。私にはその価値がありません。私は再び主の前にひれ伏し、この冠を取って下さるよう乞います。あまりにも立派すぎるのです。イエスは優しく命の冠を取って、再び私の頭の上に置き、こう言われます：

61. 「あなたにはその価値がある。わたしがそうみなしたからだ。」

62. 私は再び主の足下にひれ伏します。主の意思にどうして逆らえましょうか？ 何千もの感謝の言葉が、賛美と共に私の口から次から次へと出てきます。ただ、主を永遠に感謝し、賛美することしかできません。主は微笑みながら、冠を足下から取り上げ、私の頭の上に置かれます。主は私をじっと見つめ、それから共に笑います。私たちの笑い声は涙混じりとなり、主は何度も顔にキスされます。

63. それでも十分ではないかのように、主は私を立ち上がらせません。私を立たせながら、主は群衆に私を紹介し、彼らは今までずっと声援していたようです。声が涸れていないのが不思議です。彼らは歌を歌い始めます。特別な歌で、私が創造された時に歌われたものです。

64. これは私の歌、私のすべてを歌っている歌です。イエスに言いたいと切望していたことをすべて表しています。これは私だけのために書かれた歌で、私だけのものです。

65. (イエス:) この歌について説明させてほしい。実際、「歌」と呼ぶのは間違っている。これほど美しいものをこんなにも簡単な言葉で呼ぶのは冒とくとも言えるほどだ。交響曲ならまだしも、決して、ただの「歌」ではない！

66. わが創造物のすべて細胞が、美しい音で振動している。地上では、外見や感触、大きさで何かを確認する。ここではそのすべてに加えて、それが発する歌によって確認するのだ。

67. だから、創造された時、わが創造物はそれぞれ歌を持っている。彼らの存在を示す美しい歌だ。創造物のすべての部分がその歌を歌う。そして、共に地上の音楽をすべて合わせたよりも素晴らしいオーケストラのような演奏を作り出す。すべての音色、タッチ、サウンドがまわりに

いるものと合わさって甘美な愛を作り出し、美しい交響曲を完結する。それは、あなたのことだ！

68. イエスは再び私の手を取ります。

69. (イエス:) 来なさい、愛しい人よ、あなたのために、天国には多くの楽しみが用意されている。わたしのものはすべてあなたのものだ。わたしの資質はすべて、いつでも惜しみなく与えよう。わたしはあなたのもの、あなたはわたしのものだ。そして、わが王国にあるものはすべてあなたのものだ。まず、あなたの天の家に連れて行ってあげよう。

70. 私の胸は高鳴ります。何かをもらえるからではなく、私を喜ばせるために、さらに贈り物が念入りに用意されているからなのです。そして、何よりも、これは私を誰よりも愛している主からの贈り物です。待ちきれません。さあ、行きましょう！

71. イエスは群衆の方を向き、こう言われます：友よ、わが愛する者の帰郷を祝いなさい！ 思う存分、楽しみなさい！ わたしたちもすぐに戻ってきて、あなたがたと大いに楽しみ、この愛情深い忠実な友に値するお祝いをするだろう。

72. すると、全群衆が黄金のグラスを主に掲げて、「アーメン！」と叫びます。

73. 私たちは出ていき、一瞬の内に移動します！ けれども、どうしたんでしょう？ 何も見えません！ 足しか見えません。イエスが説明されます：

74. (イエス:) 友よ、あなたをびっくりさせたいのだ。

75. 私はほっとして、視野が制限されたことでも満足しています。制限は瞬時にして解かれ、目の前には今まで見たことがないような美しい建物が光輝いています。私が思うに、ここに来て初めて見る建物でしょう。けれども、私にとってこれは天国の中でも最も美しい建物です。イエスが私のために作られたのですから。

76. これはまさに、イエスが地上を去る時に約束された「用意された」場所です。近くに寄って見てみましたが、冷静でいることなんてできません。

ほら、引越した時においてきたお気に入りの椅子があります。そして、あれは…まさか？ 私の大好きなスポーツ用具が全部そろっています！

77. (イエス:) この天国での生活の一番良いところは、このような天国の楽しみが決して消え去ったり、退屈になったり、つまらなくなったりすることがないことだ。あなたはこれらの楽しみを、思う存分堪能することができる。使い古されたり、壊れたりすることはない。これもまた、わが愛の贈り物だ。

78. この宮殿の入り口まで行くのに一生かかるかのように感じます。一步踏み出すごとに、イエスを第一に置くために捨てなくてはならなかったお気に入りのものや私が楽しんだものが現れ、新しい宝が出て来るたびに、私は何度も主に感謝を返さなくてはならないからです。

79. それからまた進み始めます。二歩歩くだけで大好きだったものをまた目にするのです。そこで、再びイエスの所に戻って、何度もお礼を言います。すると、主はついにこう言われます：

80. 「わたしも一緒に行った方がいいようだね。さもないと、永遠に玄関まで着かないだろうから。」

81. 私たちは手をつなぎ、笑いながら家に向かいます。入り口に近づくごとに興奮が増し、主への抗しがたい喜びと感謝の気持ちで胸がいっぱいになります。

82. 入り口に着きました。私が予想していたものとは違っていますが、まさに私が望んでいたものです。私はギーギーきしむ古い木の扉も、ピカピカに磨かれた黄金の門もほしくありませんでした。私は家に入出入りするたびに体を洗う滝がほしかったのです。そして、まさにそれが入り口にあるのです。

83. 滝の中に入ると、経路である私は今までその報酬を共に味わうことができた親愛なるこの人から離れていきます。場面が次第に消え、この言葉が思い浮かびます：「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神はご自分を愛する者たちのために備えられた。」(以上、ビジョン)